校長通信(教職員版)第20号 2018. 1. 15

「中央公論 2月号 大学入試改革特集」

中央公論2月号で「徹底討論 大学入試改革―これは『ゆとり』の二の舞か」というタイトルで特集が組まれました。記事の内容は、

対談 大臣に改革の本義を質す 対談 求められるべきは「人間性」ではない ふたたび学力が低下する メンタルヘルスにも悪影響 悩める高大、攻める企業 入試の外注化はなぜ進むのか? 現役高校教師座談会 現場の覚悟が問われる時代に

一林 芳正 藤原 和博

一竹内 洋 齋藤 孝

一和田 秀樹

一倉部 史記

という内容です。タイトルからみると、かなり今回の高大接続改革について、批判的な内容が書かれていると思われましたので、早速購入して読んでみました。

1.「対談 大臣に改革の本義を質す」について

藤原氏の以前からの主張を知っている者からすれば、「彼が今回の改革に反対のはずがない」と思っていました。 案の定、藤原氏は改革に大賛成。驚いたのは、林文部科学大臣が、今回の改革について、きちんと理解をして、 自分の言葉で話をしている点です。以前から林氏は、政策通として名が通っていましたが、彼の理解力の高さに 驚きました。この対談は、今回の改革の目的を、二人の会話から端的に理解することができるので参考になりま す。

2.「対談 求められるべきは「人間性」ではない」と「ふたたび学力が低下する メンタルヘルスにも悪影響」

この2つの記事に登場する3人の著名な方は、皆さんご存知だと思うのですが、この記事を読んで最初の1ページで「読む価値なし」と判断しました。齋藤氏は、いままで教育関係についていろいろと本を出版されていますが、今回提唱されているALについては、まるで理解していません。和田氏については、論外です。これが私の意見です。

3.「悩める高大、攻める企業 入試の外注化はなぜ進むのか?」

この記事は、まさに悩める高大の実情を記事にしています。特に大学の新しい入試制度に対応できる人材がいないことを述べています。これは、河合塾のシンクタンクの方と話をしていたときに、出た話題です。「すでに新しい入試制度に対応できる人材は、確保された。大阪にある大学は明らかに出遅れています」ということです。私が登録している溝上氏のメーリングリストに、なんと阪大が「新しい入試制度を構築する人材」を公募していました。ビックリです。

4. 現役高校教師座談会 現場の覚悟が問われる時代に

この座談会は、おもしろいです。是非読んでください。4人の関東方面の先生が登場されていますが、「もうこんな実践をされているのか」ということが載っています。特に東京都立武蔵高校の山本先生の話はおもしろいですね。今ある改革に対する批判に対して、彼の実践で「答え」を出しています。

NHK 「あさイチ」子どもの授業が激変!2018教育改革最前線

1月10日の教育改革特集の「あさイチ」を録画しました。中々の熱の入れようです。番組の時間のほぼ2/3を使って特集をしていました。〇〇高校の定時制に研修に来ていただいていた

羽根拓也さん(人材開発プロデューサー)

得能絵理子さん(アクティブ・ラーニング専門家)

のコメントや、アドバイスも的を射ていましたが、なによりも、「パックン」のコメントが一番、今回の改革を理解していると思いました。彼は、ハーバード大学で、すでに世界の潮流となっているALを経験しているので、

「やっと日本も追いついたか!この改革はいい!」

と言っていました。最初に紹介した齋藤氏や和田氏の論調よりよっぽど先を見ていると思います。

番組は、教育改革の概括の紹介の後、小学校(大阪市の取組でした)、中学校に焦点をあて、家庭での悩み、取組にも焦点を当てていました。



左の写真は、走り高跳びを「どうやったら高く飛べるか」を、タブレットで撮影してみんなで検証している小学校の取組です。

また、大学入学共通テストの改革も紹介されていま したが、私立中学の入試で「思考力・判断力・表現力 等」を問う入試問題が紹介されていました。

下の写真は、千葉県柏市の民間で「ものづくり」を通じて、「考える力」を養う教育施設です。この少年は、

自作の作品に自分の名前をつけて、実際に商品化したと紹介されていました。

視聴者からのFAXで、懸念の声として出ていたのが、

「新しい教育に取り組む先生、取り組まない先生で差が生まれるのでは?」

「ベテランの先生は、大丈夫か?」

「『ゆとり世代』が、後輩が新しい教育で学んで追い越されるのではないか・・・」

など、様々な心配や懸念が出ていましたね。

もし欲しい人がいれば、ダビングしますよ!

